

2021年度
作曲コース作品発表会
第1夜

2021年 12月20日(月) 18:00開演
(17:30開場)

洗足学園 前田ホール

主催:洗足学園音楽大学・大学院

△新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒・手洗い・咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。
- ・出演者への面会はできません。出演者への花束・プレゼントもご遠慮ください。
- ・万一、集団感染の発生が明らかになった際は、保健所に入場者の情報を提供する場合がございます。



Greeting —ごあいさつ—

この度は作曲コース作品発表演奏会にお越しくださいませ、ありがとうございます。

作曲コースの学生は各自が求める音楽を自由に追求して表現していますが、

1年間の学修の成果として本コンサートで作品を発表します。

例年、古典の様式から現代の様式までさまざまな音楽様式がみられますが、

その多様性は現代の音楽文化の多様性を映し出すとともに、

本コンサート、そして作曲コースの魅力となっています。

昨年度は新型コロナウイルスの状況を鑑み、

オーケストラによる発表を行うことができませんでしたし、

学生は大きな編成の作品を避けざるを得ませんでした。

今年度、夏は感染状況も厳しい状況でしたが現在は落ち着いており、

オーケストラによる新作や編曲の発表を行うことができる環境にあります。

従来のも音楽会の姿が戻ってきていることを実感するとともに、

学生が生き生きと作曲に励んでいる姿を見られることが何より喜ばしく思います。

とはいえコロナ禍の中、オーケストラはもとより

室内楽や独奏作品の演奏に携わっていただく指揮者や演奏者の方々には、

この場をお借りして御礼申し上げます。

それでは、作曲を追求する学生の成果をお楽しみください。

作曲コース アカデミックプロデューサー

清水 昭夫



Program —プログラム—

《オーケストラ作品》

山口 広夢(編曲):W.A.モーツァルト作曲「ピアノソナタ第14番」より 第1楽章
上平 奈々(編曲):E.グリーグ作曲「抒情小品集」より《アリエッタ》《祖国の歌》《思い出》
五十嵐 太一(編曲):B.バルトーク作曲「マイクロコスモス」より No.126, No.132, No.153

武田 龍:部屋とオーケストラ ～ ヴァイオリンとオーケストラのための
ヴァイオリン独奏 松本 志絃音(学4)

米山 陸:さまよい

指揮:松村 秀明 / 演奏:洗足学園音楽大学管弦楽団

—休憩—

《室内楽作品》

鍾 熙賢:炎龍

ヴァイオリン:山下 智史(学4)
チェロ:安藤 葉月(演奏補助要員)
ギター:何 小含(院1)
ピアノ:鍾 熙賢(学3)
パーカッション:周 方傑(卒業生)

山口 広夢:ポップスソナタ“紫”

ヴァイオリンI:頼近 友莉奈(学3)
ヴァイオリンII:山下 智史(学4)
ヴィオラ:山本 里真(学4)
チェロ:原 美月(演奏補助要員)
ピアノ:三浦 琢磨(学3)

西川 竜弘:ARTCORE

ピアノ:門岡 明弥(卒業生)
マニピュレーター:西川 竜弘(学3)

松川 航樹:予感 - 岡本太郎の絵画による -

ピアノ:松川 航樹(学4)

山本 雪美:雨ニモマケズ

フルート:佐野 鈴菜(学3)
ヴァイオリン:椛田 翔允(学3)
ソプラノ:浅谷 里美(院1)
メッツォ・ソプラノ:長島 彩(院2)
コントラバス:小泉 聡一朗(学2)
ピアノ:久山 愛乃(学2)

上平 奈々:弦楽四重奏曲 第一番

ヴァイオリンI:頼近 友莉奈(学3)
ヴァイオリンII:山下 智史(学4)
ヴィオラ:山本 里真(学4)
チェロ:原 美月(演奏補助要員)

五十嵐 太一:Landscape1

フルート:菊地 晃空(学2)
クラリネット:浦川 乃阿(学2)
オーボエ:奥野 彩(学2)
ファゴット:及川 夏海(学2)
ホルン:金井 亮介(学2)



Program Notes 一曲目解説

山口 広夢(編曲) : W.A.モーツァルト作曲「ピアノソナタ第14番」より 第1楽章

モーツァルトのピアノソナタとしては数少ない短調作品の一つ。モーツァルトのピアノソナタの中で最も激しく劇的な展開を見せており、初期のベートーヴェンに強い影響を与えたとされる。

中でも第1楽章は、ハ短調4分の4拍子でソナタ形式となっている。

第1主題はオクターブのユニゾンで力強く始まるが、すぐに細い応答と神経質な半音下降とで雰囲気打ち消される。その後変ホ長調に転調し、一見第2主題ともとれる移行部を経て、かわいらしい第2主題と小結尾が提示される。展開部は移行部の旋律がハ短調で現れるほかは、第1主題冒頭部のみを執拗に展開する。再現部では移行部は省略され、代わりに変ニ長調の短いエピソードが挿入されている。

第2主題と小結尾はハ短調で再現される。コーダでは第1主題がカノン風に扱われた後に決然と鐘のような旋律が現れ、最後は低音のうごめくような動きで終わる。今回、自分が高校3年の実技試験の時に演奏したこの曲を、当時弾いた時の記憶や感覚を思い出しながらオーケストラ編曲に仕上げました。

ピアノのダイナミックな激しさとはまた一味違う、迫力あるオーケストラサウンドのピアノソナタをお楽しみください。



<作曲者プロフィール>

東京都世田谷区出身。5歳からピアノ、高校2年から作曲に関わる。東邦音楽大学附属東邦高等学校ピアノ科卒業。作曲理論、和声学、音楽分析を原田敬子、清水昭夫、木下淳雄、台信遼の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース3年在学中。

上平 奈々(編曲) : E.グリーグ作曲「抒情小品集」より《アリエッタ》《祖国の歌》《思い出》

原曲は、グリーグの「抒情小曲集」の中に含まれている、とても美しいピアノ曲である。

私はノルウェー人ではないが、ノルウェー人としての誇りを忘れず、祖国を愛してやまなかったグリーグのような芸術家を非常に敬愛している。グリーグの曲には、ノルウェーの国土の70%を占める岩石、湖沼などの大自然、更にはフィヨルドの雄大な絶景などをイメージしながら作られた痕跡が随所に見受けられるのだ。その他にも、古来から伝わるノルウェーの民謡などの収集家でもあったようで、ノルウェー愛がひしひしと伝わって来るのである。

これらの曲を編曲するにあたり、私もグリーグのように、自国人としての尊厳を保ち、伝統を重んじ続けることの出来る人間でありたいと感じている。



<作曲者プロフィール>

東京都出身。3歳からピアノを始め、クラシックピアノを青木肇、田中拓未、高橋裕希子、ジャズピアノを青柳誠、作曲を土屋洋一、久行敏彦、清水昭夫各氏に師事。

クラシック音楽のみならず、ポップス、ジャズ、ラテン音楽、ミュージカル、映画音楽、吹奏楽、現代邦楽、民族音楽等の多岐に渡る音楽にも興味を持ち、それぞれの作曲法についても研究中。

及び、歌曲、合唱曲などを作曲する際には言葉の音節とメロディーとの関連性にも気を配り、歌いやすく、言葉の響きの持つ美しさも重視した歌曲、合唱曲を作ることを信条としている。

現在、洗足学園音楽大学作曲コース3年在学中。

五十嵐 太一(編曲) : B.バルトーク作曲「マイクロコスモス」より No.126, No.132, No.153

バルトークが次男ペーテルのピアノ練習のために1927年から1933年の間に書かれた作品である。全部で153曲書かれており後半に連れて曲難易度も上がっていく。バルトーク自身ハンガリー出身でありハンガリーの民俗音楽について研究をし作曲を行っていたが民俗音楽から作曲を行うことに限界を感じ新たな作曲法を研究していくための実験として書かれた曲集でもある。自分はこの曲集の中から126「変拍子」132「同時と分散の長2度」153を今回の編曲作品から選んだ。



<作曲家プロフィール>

東京都出身。明星学園高等学校卒業。作曲を大竹くみ氏、音楽理論を原田愛氏、ピアノを水野紀子氏、石田多紀乃氏に習う。現在、洗足学園音楽大学作曲専攻3年に在学中。

武田 龍：部屋とオーケストラ ～ ヴァイオリンとオーケストラのための

演奏会場としての「場」の概念は、配信技術の普及などによって私的な部屋との境目が薄れ、その意味合いは徐々に変わってきているようです。

演奏のための「場」と、それを聴くための「場」の不一致はとても面白く、その在り方を考えることは作品づくりに新しいひらめきを与えてくれる予感がしました。

この作品は、そのような興味を出発点とした音楽です。

配信での視聴を念頭に、自分の部屋で聞こえるいくつかの音をオーケストラに転写することでコンサートホールと部屋とを共通の音素材によってリンクさせます。媒体となるオーケストラの存在とともに、そこに生まれる「場」を考えます。



<作曲家プロフィール>

早稲田大学政治経済学部を中退し、本格的に作曲活動を行う。これまでにANAや樺坂46などの映像作品や広告音楽を手掛ける。

その後、より緻密な技法を学ぶため洗足学園音楽大学作曲コースに入学。現在4年在学中。作曲を佐藤昌弘、音楽理論を清水昭夫、市川景之、ピアノを山田武彦の各氏に師事。

日本の"音"に対する感性を作品の中に織り込み、現代の日本において生まれる響きの創造をこれからの研究テーマとしている。

米山 陸：さまよい

この曲の制作にあたって何度も道を見失い、心を砕き、なぜ作曲をしているのかとさえ思いました。

されど頭を捻った末に吐き出した真珠にはえも言われぬ愛おしさがあり、きっと私はその輝きを追い求めているのでしょう。

「さまよう」という言葉は二つあり、うろろう歩き回る「彷徨う」の他に苦しむうめく「呻吟う」というものもあります。

そして、さまようのは私でありこの曲でもあります。

時に嘆き、時に戯れ、踊り、歌い、暴れる。

しかし、何度迷おうとも一筋の信念のもとに進むべき道を模索し続ける。

これからも幾度となくさまようことになるだろうが、その度に壁を越え、輝きを増してやろうではないか。

そんな決意を感じていただけたら幸いです。



<作曲家プロフィール>

群馬県出身。群馬県立前橋高等学校卒業。

トランペットを白井道夫、作曲を小山千草、清水昭夫、伊藤康英、松下倫士、ピアノを岡庭萌子、和田さやか各氏に師事。

現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース4 年在学中。

鍾 熙賢：炎龍

1.炎龍域

村に到着したら、旅行者はこの村全体を飾る偉大なるトーテムに歓迎される。村人らは敬意を持って彼を囲い、情熱を持って彼を歓迎することになる。村人たちは、この村がもたらす小さな不思議を享受できるように彼を引き留めてみた。それが炎龍域である。

2.トーテムの舞

そして夜はひっそりと訪れ、村人たちは集まって彼らのセレモニーのパフォーマンスをし始めた。彼らの中に混じり合う旅行者は、このセレモニーを気持ちよく鑑賞している。その時にキャンプファイアがトーテムの中心で灯され、村の中心がその暖かい火によって照らされる。村人たちはキャンプファイアを囲んでまるでパラダイスを始めたように踊り出し、賛美の歌を歌って彼の身にある炎龍によって乱切りされたキズに感謝する。燃える夜はこれを以て幕を開ける。



<作曲家プロフィール>

鍾 熙賢 (チュウ ヘ イン)、通称「マーク」。香港に生まれ、4歳からピアノを学ぶ。13歳の時、カナダに移りました。カナダに在住時に日本の音楽文化への興味を持つ。また北アメリカとアジア両方の音楽文化を体験し、その文化を越えて新しい音楽を作りたいと思い、日本に留学しました。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース3年在学中。

西川 竜弘：ARTCORE

マイクでピアノの音をPCに取り込み、エフェクト等を載せてスピーカーから発声し、ピアノの生音と融合します。

曲名のARTCOREは音楽ゲーム等で人気のジャンルで、本来は疾走感のあるドラムパターンと神秘的なピアノや弦楽、シンセサイザーを取り入れたようなジャンルですが、今回はピアノやエフェクトによるフィル等を抜き出し、再現しようとしてきました。

リアルタイムでエフェクトを取り入れる音楽はまだまだ開拓できそうですね。



<作曲家プロフィール>

神奈川県出身。高校に通う中で作曲に興味を持ち、パソコンでの作曲を始める。現在、作曲を清水昭夫、小谷野謙一の各氏に、ピアノを岡本暁子氏に師事。洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース3年在学中。

山本 雪美：雨ニモマケズ

「雨ニモマケズ」は、宮沢賢治が1931年に書いたとされている詩で、「法華経」の精神にもとづいて書かれていると考えられています。人のために労を惜しまず、評価されることに重きを置かないという詩の内容が仏教に通じるからと言われていています。作曲にあたり、鐘のイメージを再現して曲全体を包み込み、旋法を取り入れながら作りました。日本語が持つリズムをソプラノ歌手とメゾソプラノ歌手によるメロディーで奏で、ピアノとコントラバスで鐘のイメージを取り入れ、ヴァイオリンとフルートで風や雨等をイメージしました。イメージを感じ、変化を楽しみながら聴いてくださると嬉しいです。



<作曲家プロフィール>

大分県出身。学校法人別府大学明豊中学・高等学校普通科特別進学コースを卒業。5歳よりエレクトーン、10歳よりドラムを始める。エレクトーンフェスティバル2016アンサンブル演奏部門九州ファイナルで銀賞、第45回大分県音楽コンクール作曲A部門で第2位。2016年~2018年、ヤマハ音楽振興会西日本エレクトーン演奏研究会に参加。2019年4月から2021年3月まで作曲と電子音響音楽を松宮圭太氏に師事。大分県立芸術文化短期大学音楽科音楽総合コース作曲分野の卒業を経て、現在洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース3年在学。作曲を柳川瑞季氏に、作曲理論を川崎真由子氏に師事。

山口 広夢：ポップスソナタ“紫”

個人的な意見ですが、ポップスのイメージカラーは青春っぽいということで「青」、一方クラシックは情熱的な「赤」だと思っています。これら異なるジャンル2つが混ぜ合わせたものを作曲しようと考えたのが今回の作品です。タイトルの『紫』はポップスとクラシックのイメージカラー「青」と「赤」を混ぜた意味になっています。

前半は8分の6拍子でクラシカルな雰囲気。後半は4分の4拍子でポップスなリズムとハーモニーで演奏されます。また形式はモーツァルトやベートーヴェンなどクラシックの交響曲の第1楽章によく使われるソナタ形式になっています。

ピアノ五重奏が奏でるクラシックとポップスを融合した作品をお楽しみいただけたら幸いです。



<作曲家プロフィール>

東京都世田谷区出身。5歳からピアノ、高校2年から作曲に関わる。東邦音楽大学附属東邦高等学校ピアノ科卒業。作曲理論、和声学、音楽分析を原田敬子、清水昭夫、木下淳雄、台信遼の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース3年在学中。

松川 航樹：予感 - 岡本太郎の絵画による -

「予感」という標題は芸術家、岡本太郎の作品による物である。卒業制作としてこの4年間貫いてきたピアノと言う楽器での表現を目指した。彼の絵画は赤・黄・青などの原色を惜しげもなく使い、その作風や美学も相俟ってお世辞にも綺麗な作品とは言えない。然しその目を背けたくなる様な嫌悪感こそ芸術の本質に必要な物だと彼は説いた。そんな当時の前衛芸術にインスピレーションを得て、今まで根幹に置いていたロマンティックな作風から逸脱した作品に仕上げている。



<作曲家プロフィール>

熊本県出身。ピアノを柏尾富貴子、浦壁信二に師事、作曲を中島和宣、清水昭夫、照屋正樹、増田達斗の各氏に師事。現在、洗足学園音楽大学音楽学部作曲コース4年在学中。

上平 奈々：弦楽四重奏曲 第一番

今作、「弦楽四重奏曲第一番」は、本年夏の作曲コースの録音録画会に先だって発表していた第一、第二楽章に今回新たに制作した第三楽章を加え、全楽章を通しての発表となる。

第一楽章は、A dur で全ての楽器がユニゾンから始まる楽章である。相次ぐ緊急事態宣言などで暗いニュースが相次ぐ中、少しでも前向きになれる曲を書きたいと思い、el esperanza(スペイン語で「希望」の意味)をモチーフに制作した。

第二楽章は B dur で快活なメロディに沿って展開される楽章である。el amanecer(スペイン語で「夜明け」の意味)を意識して制作した。一日の中で最も美しい時間帯は晴れの日の夜明けであり、清々しい一日の始まりを告げるとても大切な瞬間である。昇りゆく太陽のような力強さと、日々を精一杯生きる大切さを感じとってほしい。

第三楽章は、再びA durで、しかし今度はそれまでとは打って変わってゆったりと始まる緩徐楽章である。

Brisa suave(スペイン語で静寂なそよ風の意味)をイメージしながら制作した。そよ風のように静寂でゆったりとした暖かい時間が流れていく様子を想像していただければ幸いです。



<作曲家プロフィール>

東京都出身。3歳からピアノを始め、クラシックピアノを青木肇、田中拓未、高橋裕希子、ジャズピアノを青柳誠、作曲を土屋洋一、久行敏彦、清水昭夫各氏に師事。

クラシック音楽のみならず、ポップス、ジャズ、ラテン音楽、ミュージカル、映画音楽、吹奏楽、現代邦楽、民族音楽等の多岐に渡る音楽にも興味を持ち、それぞれの作曲法についても研究中。

及び、歌曲、合唱曲などを作曲する際には言葉の音節とメロディーとの関連性にも気を配り、歌いやすく、言葉の響きの持つ美しさも重視した歌曲、合唱曲を作ることを信条としている。

現在、洗足学園音楽大学作曲コース3年在学中。

五十嵐 太一：Landscape1

今回の作品は建築をモチーフに作曲した作品である。

自分は特に建築物が作られていく様子、作られたことによって不要になったものが取り壊されていく様子について着目した。

「Landscape」という単語は建築の世界でよく使われる単語であり、意味は都市における建物や公園などの公共空間的なデザインを指す。このようなことを今回は木管五重奏という形で自分は表現した。

演奏を快く引き受けてくださった皆様にはこの場を借りてお礼を申し上げます。



<作曲家プロフィール>

東京都出身。明星学園高等学校卒業。作曲を大竹くみ氏、音楽理論を原田愛氏、ピアノを水野紀子氏、石田多紀乃氏に習う。現在、洗足学園音楽大学作曲専攻3年に在学中。

Orchestra —オーケストラ—

松村 秀明 (指揮)



慶應義塾大学法学部卒業。大学在学中より洗足学園音楽大学附属指揮研究所にて学び、マスターコースを修了。

これまでに指揮を秋山和慶、河地良智、増井信貴、湯浅勇治の各氏、ピアノを馬場幸希江、クラリネットを四戸世紀の各氏に師事。

2006～2008年の「アフィニス夏の音楽祭」に指揮研究員として参加、2010年度は新日鉄文化財団により新設された指揮研究員のオーディションに合格し、紀尾井シンフォニエッタ東京で研鑽を積む。第11回アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第3位入賞。

これまでにオーケストラ・アンサンブル金沢、大阪交響楽団、岡山フィルハーモニック管弦楽団、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、九州交響楽団、京都市交響楽団、群馬交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、千葉交響楽団、中部フィルハーモニー交響楽団、東京交響楽団、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、日本センチュリー交響楽団、兵庫芸術文化センター管弦楽団、広島交響楽団、山形交響楽団、読売日本交響楽団を指揮。2012年にはイタリアのボルツァーノ＝トレント・ハイドン管弦楽団に招かれて3公演を指揮、好評を博す。

また、2019年の天皇陛下のご退位と新天皇ご即位にあたり、日本テレビによって制作された楽曲「新時代へ」（佐藤直紀作曲）の録音を指揮（演奏は読売日本交響楽団）。大きな話題となっている。

現在、洗足学園音楽大学非常勤講師。



Member

—メンバー—

Concertmaster	松本 志絃音	頼近 友莉奈				
Violin	安部 誼美	池原 志穂	榎本 安杏	木村 菜穂	佐藤 クレメンツ アリス	しの
	筱崎 愛*	井上 海燦	宇根 由利子	椛田 翔允	長沢 明日香	早川 萌音★
	久本 奈海	勝部 小夏	齋藤 亜花羽	佐々木 郁子	島村 佳奈	鈴木 光菜
	鴫田 翔	松村 歩美	三谷 月菜	宮崎 莉子		
Viola	榎本 知香	川勝 颯斗	山下 智史	山本 里真	米倉 海陽	宇津木 遙花
	小林 真子	宮島 麻歩★*				
Cello	安藤 葉月♪	飯田 莉奈♪	奥平 華子♪	廣田 遙♪	原 美月♪	
Contrabass	嶋野 晴斗*	伊藤 令華	小泉 聡一朗	呉 惇禎♪	安田 廉♪	
Flute	足立 柚寿*	川野 真奈	小林 千夏	清水 涼花	福井 麻菜	
Oboe	佐藤 千尋*	渡邊 悠乃	宮本 菜摘			
Clarinet	石橋 優安	加藤 明日香★	小泉 和世*	齋藤 遙	齋藤 要助	
Fagotto	福原 佑紀	前澤 美里*	塩谷 花笑	上治 唯奏	平川 眞鈴	
Horn	小秋元 歩	後藤 陸歩*	末永 廉	佐藤 俊輝	西川 宗辰	山口 亜希菜
Trumpet	神山 巧弥	清宮 衛介★	澁江 ワタル	居石 まどか	中山 垂実	水谷 樹里
	森 猛流*	山下 莉奈				
Trombone	岩井 心	櫻井 美湖	津吹 亮汰*	米村 麻優	小森 豊生	篠塚 裕太
	神野 葵					
Tuba	石崎 義基*	石田 健悟	吉田 怜生			
Percussion	近藤 花音★*	高橋 芽生	福光 真由	森 奈那子	小野寺 俊介	林 拓海
	福本 奏音					

★…インスペクター

*…パートリーダー

♪…演奏補助要員

企画運営責任者	松本 健司					
指導教員	近藤 薫	中 一乃	大野 かおる	羽川 真介	今野 京	森 圭吾
	辻 功	石井 淳	勝俣 泰	古田 賢司	池上 亘	次田 心平
	渡邊 功	井手上 達	幸西 秀彦	清水 太		
助手	鳥越 濯					